

ナガサワ カナエ(長沢 鼎)

ワイン製造者(1852-1934)

カリフォルニア州サンタローザ ファウンテングローブのワイン製造者、
鹿児島県のサムライ長沢鼎の生涯

1852年2月20日 誕生

磯長彦輔(長沢鼎に名前を変更)は、日本の鹿児島、薩摩で生まれました。侍の息子であった彼は、剣術を10歳で始め13歳の頃には立派な武士でありました。また、彼は驚異的な記憶力を持つ優秀な学生でもありました。

1865年2月13日 藩命 イギリス行き

日本が開国をしたときに、西洋知識が不可欠になると見越していた薩摩藩主は、西洋文化と技術を研究するため、彦輔を含む15人をイギリスに行くよう命じました。

1865年2月15日 船を待つ

留学生達は、渡英する船を待つために、羽島村(現在の鹿児島県いちき串木野市)に目立たぬように入りました。海外渡航は、幕府の禁ずるところの国禁にあたるため、全員が変名を名乗り、船が来るまでの二ヶ月間を不安の中で待ちわびました。

1865年4月17日 航海

船が到着し、彼らの65日間の航海が始まりました。すべての手配は、長崎で成功した商人スコットランド人トーマス・ベリー・グラバーによって行われました。

1865年6月21日 到着

早朝、彼らの船がサウサンプトンに到着しました。午後に列車でロンドンに向かうと、彼らは素晴らしい光景に驚きました。

1865年8月19日 スコットランドへ

13歳の長沢は、他の学生と一緒に大学に入るには余りにも若すぎました。彼は、トーマスグラバーの両親が住むスコットランドのアバディーンに向かいました。彼はそこで中等学校に入学し、大変優秀な成績を残しました。

1867年夏 留学生資金の減少

倒幕をもくろむ薩摩藩は、夏頃から軍備費用を増加しました。そのため、藩からの留学生の資金は次第に減少し、彼らの経済状況は苦しくなっていました。6人を除く留学生の全てが、鹿児島に戻ることになりました。

1867年8月 トーマス・レイク・ハリス

留学生達は、米国の新生兄弟社という宗教的集団のリーダー、トーマス・レイク・ハリスに出会いました。ハリスは、留学生達に対し、ニューヨークのコロニーにおける労働と引き換えに教育を引き続き提供することを約束しました。長沢と彼の仲間の留学生達はこれを受け入れ、ハリスとともに大西洋を渡りました。

1867年10月14日 明治維新

薩摩藩と長州藩に託された秘密命令は、幕府を倒すためのものでした。そして、明治維新が起こりました。明治天皇は1868年に即位し、死亡する1912年まで在位しました。

1867年 - 1875年 ニューヨーク州 ブロクトン

留学生達は、ハリスのニューヨーク州ブロクトンにある新生兄弟社のコロニーに入りました。若い長沢にとって、ブドウ園は学び舎であり、専門家からブドウ栽培を学びました。その後、長沢以外の留学生は1868年に国事に従事するため帰国することになりました。

1875年7月 ファンテングローブ

ハリスと長沢の他3人は、新天地を求めてサンタローザに到着しました。サンタローザの北400エーカーを1エーカー\$50で購入しました。そして、すぐにファンテングローブ農園の建設工事に着手しました。その後、より多くの農地を購入し、拡大しました。

1878年 植付け

ブドウの植付けが完了しました。ワイン用ブドウは、375エーカー、テーブルブドウは25エーカーの敷地に植えつけられました。牛、馬、豚のために50エーカーの牧草地もありました。175エーカーに干草と穀物、そして、200エーカーにオリーブや果物の樹木が植えられました。

1882年 ファンテングローブ ワイナリー

60万ガロンの容量を持つ大規模な石造りのファンテングローブワイナリーが完成しました。そのワイナリーは、10年後に焼失しましたが、半年で再建されました。

1890年 長沢が責任者となる

ハリスは、ファンテングローブを長沢に任せてニューヨークに行きました。長沢は、牧場とワイナリーの責任者となりました。彼は、ブドウ栽培に対して驚異的な知識があり、優秀なワイン商人でありました。ファンテングローブは彼の指導力の下、カリフォルニアの10大ワイナリーのひとつとなりました。ワインのほとんどは、輸出するためにニューヨークに出荷されました。英国に輸入された最初のカリフォルニアワインは、ファンテングローブからのものでありました。

1896年 - 1927年 親戚が参加

長沢は生涯独身でした。1896年に、彼の甥である伊地知共喜がファンテングローブに来ました。共喜は、1917年に梅田ヒロと結婚しました。1919年に彼らの息子の幸介が生まれ、1927年には、娘のエミーが誕生しました。1902年に佐々木英吉そして、1916年には磯長紀一の2人の甥も参加しました。

長沢は、サンフランシスコ総領事館と協力し、日本人移民の入国に尽力しました。彼らの多くは、サクラメントバレーに向かいましたが、何人かはファンテングローブで雇用されました。1890年から1910年までに、カリフォルニアの日本人の人口は1,000人から40,000人以上に増加しました。半数以上が農民でありました。1920年には日本人が、カリフォルニア州のすべての農地の8分の1を所有または借地し、カリフォルニア州産ブドウの35%を収穫していました。長沢は、最も影響力のある日本人の農業者であり、ワイン製造者となりました。

1899年 ラウンドバーン

ファンテングローブには、多くの建物やワイナリー跡、60頭の馬を収容するために造られたラウンドバーンが当時の面影を残しています。

1897年・1910年・1917年・1923年 鹿児島を訪問

1897年・1910年・1917年・1923年の4回、長沢は鹿児島を訪問しました。その時彼は、カリフォルニアの「ブドウ王」として賞賛されました。日本のエリートクラスの戦士を指す「サムライ」という言葉はアメリカでは皇族と誤解されていたので、長沢はサンタローザでは男爵・王子などと呼ばれていました。

1900年 ファンテングローブ 売却

ハリスは、ファンテングローブの所有地をコロニーの何人かの主力メンバーに売却することにしました。ファンテングローブ農園とワイナリーは長沢と他4人のメンバーに\$40,000で売却されました。トーマス・レイク・ハリスは1906年に死亡しました。

1908年 ネアブラムシ

ファンテングローブのブドウ畑がネアブラムシに侵され、UC研究所からの指示で植え替えを行いました。ブドウの樹が成熟するまでの間は、ブドウを購入し、ワイン造り続けました。1911年になって、400エーカーのぶどう畑で再び収穫されました。

1915年 パナマパシフィック万国博覧会の審査員に選ばれる

長沢は、日本のコミッショナー総長賞の1915年パナマ・パシフィック万国博覧会の出品物審査員を務めるように頼まれました。ワインの専門知識に優れていたこと、日本人としての産業能力と誠実さがアメリカ人に良い印象を与えていたことが審査員に選ばれた理由でありました。

1920年1月 禁酒法

1920年1月、酒の製造、販売または輸送が、法律の第18条改正によって禁止されました。長沢は、ブドウジュース、料理用シェリー、ワインをベースにしたビーフニックを作り出しました。一方彼は、個人的に所蔵しておいた上質なワインで訪れた客をもてなしました。

1907年・1913年・1923年 排日移民法

この法律は、外国人が土地を所有すること、子孫に相続することを禁止するものでありました。長沢は法律制定前の移住者であったため、経済的な影響を受けませんでした。後継者の伊地知幸介にファンテングローブを相続することはできませんでした。

1924年2月11日 叙勲授章

長沢の功績が認められ、大正天皇から勲五等雙光旭日章を授与されました。1928年に日本政府は、昭和天皇からの大礼記念章の記念メダルを彼に授与しました。また、彼の死後には、勲五等瑞宝章が授与されました。

1933年 禁酒法廃止

禁酒法は廃止されました。長沢は、ロサンゼルスに支社を設置し、彼の代理人が責任を持って、ファンテングローブワインの流通を担当しました。

1934年3月1日 長沢鼎死す

死因は動脈硬化でした。亡くなる前夜、家族が集まり、彼は「もうお別れの時が近くなったようだ。……死を美しく迎えたい……」と囁きました。彼はハリスを称讃し、教義を理解しようとしていましたが、日本人として先祖伝来の仏教・儒教・神道の広い哲学の概念が強く、まだサムライとしての奥義と神智学が残っていました。その後、彼の遺骨は、鹿児島島の家族の墓に納骨されました。

1935年 - 1937年 ファウンテングローブ売却

長沢が信頼していた弁護士ウォレス・ウォーは、不動産を清算・売却して、相続人の間で収益を分配することとしました。1935年サンタローザ商工会議所が85エーカーを購入しました。そして、1936年12月に残りの長沢所有の土地1,768エーカーをエロル・マックホイルが購入しました。1937年になってすぐ、伊地知家の人々はファンテングローブを離れることを余儀なくされました。彼らは見のまわりのものだけを持って、サンタローザの友人のところまで世話になりました。

不動産販売の配分は、\$118,050となりました。様々な請求書、弁護士費用、および葬儀の費用は\$66,160となりました。ウォーに弁護士費用に加えて\$25,000を渡すようにという長沢の遺言がありました。伊地知家は、弁護士にこれ以上の報酬を払わないと主張したにもかかわらず、遺言検認裁判では、追加料金の支払いをするよう判決が下りました。残りは、\$3,500.12で、それを5人の相続人で相続しました。

1979年ファウンテングローブの開発

ファンテングローブの1,270エーカーは\$15,400,000で売却されました。その一部は、オフィスビルや住宅のために不動産開拓業者に売却されました。TM&Iコーポレーションは、長沢鼎の栄光を称えるためにラウンドバーンを改築し、日本風のカントリークラブを造りました。

1983年 友好協会が結成

長沢の功績を称え、長沢の故郷と彼が帰化した土地との文化的絆を深めるために、サンタローザ市民の間で友好協会が設立されました。それと同時に、鹿児島にもサンタローザとの友好協会が設立されました。パラダイスリッジワイナリーでは長沢鼎とファウンテングローブの歴史的に重要である展示を行い、これを後世に伝えていくことを目指しています。

長沢の人生とファンテングローブ農園についての情報は、1990年に鹿児島短期大学から発行されたKanaye Nagasawa — a biography of a Satsuma student(門田明氏、テリー・ジョーンズ共著)から引用しました。

(年表は、鹿児島サンタローザ友好協会から提供していただきました。)

長沢鼎展示 Paradise Ridge Winery 4545 Thomas Lake Harris Dr. Santa Rosa, CA 95403 (707) 528-9463